

# 学園だより

This Student Information Booklet contains a variety of useful information for Nagoya University students, including on-campus news as well as extracurricular activities.

vol.173

2018.3

## CONTENTS

コラム / 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集 / 特集① 平成29年度名古屋大学体育会結果報告会  
 特集② 第58回体育会リーダーズ・アセンブリー / クラブ活動 / トピックス / 教育推進部の窓 / 災害対策 / 伝言板

## COLUMN

### 国際化、多様性、インクルーシブネス

名古屋大学総長 松尾 清一

近年、名古屋大学は多様性が増している。留学生や外国人教員の増加、女性の活躍促進、企業や自治体などとの活発な共同研究などによる社会人との交流機会の増加、学内外における分野を超えた連携の機会の増加、等々、一昔前に比べればキャンパスはずいぶん様変わりしたと思う。学内での会話に耳を傾けると、日本語、英語、中国語だけでなく、実に多様な言語が話されている。実際に名古屋大学の留学生数は年々増加し、名古屋大学の総学生数16,000名のうち留学生は1,700名を超え、短期留学生も併せると世界100ヵ国から年間2,500名以上もの学生が名古屋大学で学んでいる。おそらく平均すると名古屋大学のキャンパスには常時8人に一人の留学生が学んでいると思われる。外国人教員数も150名を超えている。英語のみで終了できる授業も2割ほどに増えた。また名古屋大学では男女共同参画を積極的に進めおり、国連女性機関（UN Women）が世界で展開している女性活躍促進のためのHeForSheキャンペーンを推進する世界10大学の一つにも選ばれている。このように考えると、名古屋大学のキャンパスは一つの国際的な空間、多様な人々と文化が混じりあう空間であるということが出来る。このような環境に何年も身を置いてじっくりと物事を考え、また自分の将来を考えることのできる経験は一生でそんなに多くないと思う。私たち名古屋大学の教職員や学生は毎日、このような環境の中で勉強や研究、課外活動を行っているわけで、様々な体験やチャレンジができるチャンスがある。実際にこのような経験からは多くのことを学べることを、大学外の様々な場所を経験してきた私自身が身をもって体験してきた。しかし、私たちは実際にこのようなキャンパス環境を活かしているか、自分の周りにはグループの周りに壁を作っていないか、せっかくあるチャンスを逃してはいないか、今一度問うてみる必要がある。積極的に心を開けば、そこには異次元の世界が待っている。そのような文化がキャンパス全体に広がれば、単に異なる人たちが同じ場所で学んでいるだけという単純な多様性から、それらの人たちが垣根を低くして混じりあい、ストレスなく新しい共創活動が生まれ、そして大学らしい新しい価値の創造につながるものと思っている。すなわちインクルーシブなキャンパスへの脱皮である。これは数字では表現しがたいが、自由闊達な名古屋大学の進化した文化として、ぜひ培ってゆきたいものである。

# 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



## 『周りの人に支えられて』

文学研究科 M2 中嶋 愛

私は2年前の春、名古屋大学文学研究科に入学しました。学部時代は関西の大学で過ごしましたが、研究のおもしろさに触れ、よりよい研究の場を求めて名古屋の地へとやって来ました。改めてこの2年間の大学院生活を振り返ると、周りの人に支えられてこそのものでした。

大学院では授業も厳しくなり、その準備や学会への参加など、学部のこととは段違いの多忙な生活となりました。どうせやるならより高い水準で、との熱意を持って大学院へと足を踏み入れたはずでしたが、いつの間にか私は大学院での生活がつらいと感じ、果ては自分は研究に向いていないのではないかと思悩むことも増えていました。特に修士2年目には就職活動を並行していたこともあり、修士論文の準備に身が入らず、忙しさにかまけてその場しのぎの発表を繰り返すこともありました。こうしてみると大学院生として決して褒められたものではなかったと思います。

しかし、こんな私がこの2年間を過ごしてこられたのは、人との出会いに恵まれたおかげでした。根気強く指導して下さった先生、親身に手助けをして下さった先輩、いろんな話をひたすら聞いてくれた後輩、そして何より、時には悩みを打ち明け合い、時には励まし合った同期たちの存在ほど心強いものはありませんでした。特に修士論文の追い込みの時期には、みんながそれぞれ大変な状況にあったと思うのですが、進みが遅く弱音ばかりを吐いていた私を励ましてくれました。毎日毎晩机に向かうのは正直つらいものがありましたが、同期たちをはじめとした周りの支えがあったからこそ乗り切ることができました。

そして幸運にもこの春からは、学芸員として就職することとなりました。そのため卒業後は名古屋の地からは遠く離れることとなります。しかし、ここで出会った方々への感謝の気持ちを忘れず、研究者として、また、社会人として成長を続けていくことでその恩返しをしていきたいと思っています。



〈筆者・右から二番目〉



## 『楽しむ気持ちを忘れずに』

教育学部 4年 渥美 聡明

私が大学生活を通して意識するようになったことは「楽しむ気持ちを忘れない」ということである。このことを意識するきっかけは4年間私が所属していたサークルにあった。

2014年4月、私が大学に入学すると、最大の関心事はどのサークルに入るかということであった。そのとき、教育学部の先輩が「ちくさ日曜学校」という障害者の方と共に工作・運動・宿泊などの活動を行うボランティアサークルを紹介してくれた。当時の私はボランティアと聞くと自分を犠牲にして他人の為に尽くすことをイメージしていたが、実際に参加してみると違った感想をもった。「楽しくて自分の方も元気をもらっている！だからこそ障害者の方の支援もできる！」と。気が付くと1年間ほぼ休まずサークルの活動に参加していた。2年生以降は自分が活動の運営をする機会も増えたが、そこで私は「障害者の方も学生も全員が楽しめるような」活動ができるように心掛けた。全員が楽しんでこそよりよい結果が生まれると私は感じていたからである。その結果、「以前とは活動の雰囲気違って楽しめた」といった声を聞くことができた。

これ以外にも、私は大学生活を通して、自分が楽しむ気持ちを大事にしてやりたいことをやってきた。趣味であるサッカー観戦は4年間で30試合程度観戦し、海外旅行は台湾、カンボジア、ベトナム、イギリス、イタリア、フランスといった国々を旅することができた。また、外国語を通じて様々な国の人と交流することに楽しさを感じ、スペインとオーストラリアにそれぞれ1か月程度短期の語学留学を行った。

大学卒業後は、IT系の企業に就職する。そこでも、私はできるだけ自分なりのやり方を見つけて楽しんで仕事をしていきたいと思っている。

ここまで読むと、私は自分に自信を持っていて自分のことがよく分かっている人間であるように感じられるかもしれない。しかし、実際はそのようではなく、少なくとも以前は全く違っていた。しかし、そのようなときに自分を励まし勇気づけ、自分のいい部分を言葉にして伝えてくれた親友のおかげで今の自分があると感じている。そのような親友に感謝すると同時に、今後お互い信頼しあえる人を大事にしていきたいと思う。



〈筆者・中央〉



## 『憧れの場所』

法学部4年 齋藤 野花

中学生のころからずっと目標にしていた名古屋大学。そんな憧れの場所での四年間はあっという間に過ぎていきました。勉強、バイト、サークル、ゼミ、プライベート、思い返してみれば自分なりに充実した大学生活を送れたのではないかと思います。

中でも印象に残っているのは、宮木先生のご指導の下、三年間所属させていただいたゼミでの活動です。毎週の模擬裁判やテーマごとの発表では、難しい題材で苦しむこともありましたが、班のメンバーと協力し合いやり遂げた後の達成感は何とも言えないものがありました。また、一年に一度行われる名古屋高等検察庁参観では、検察官の方々と相手を模擬取り調べをするという司法修習生さながらの体験をさせていただきました。検察官の方々の話を直接うかがう機会もたくさん設けていただき、勉強のモチベーションを向上させることができました。

さらに、宮木ゼミでは、各種の刑務所参観や、刑法学会のスタッフ、犯罪被害者の方々と行うシンポジウムなど、他では得ることのできない経験を沢山させていただきました。これらの経験は、私のこれからの人生において、様々な場面で役立ってくれることと思います。

そして、法科大学院入試の前、なかなか自信がつかず不安に押しつぶされそうだったときに助けてくれたのもゼミのメンバーでした。同級生はもちろんのこと、すでに法科大学院に進学された先輩たち、宮木先生など、沢山の皆さんに背中を押していただき、無事合格することができました。

最後に、四年間何不自由なく大学生活を送ることができたのは、家族の支えがあったからだと思います。四月からは名古屋大学法科大学院での二年間にわたる勉学の日々が始まるため、大学生活が終わっても、働き始めるまではまだ時間がかかります。これからさらに家族や周りの人に支えられて過ごしていくことになると思います。いつかこの大きな恩を返せるように、頑張りたいです。



〈筆者・左側〉



## 『本分を全うすること』

経済学部4年 瀬住 優太

「本学の学生として、その本分を全うすることを宣誓します。」入学式に2216名の入学生の総代として、当時の濱口総長に宣誓したこの言葉が私の学生生活のスタートでした。その時の私は、この言葉をただ口にしたものとして終わらせたくはないという心情を抱いており、加えてこの4年間の目指すべきところも定めていなかったため、眼前にあった「本分を全うすること」という漠然とした言葉を学生生活の柱とすることにしました。また、曖昧さが残るこの柱に対して当初の私は、学生の本分とくればやはり学業だろうという結論に至り、日々勉強にいそしみ続けながら4年間を過ごすことを解としていました。

今この時になってそんな私の4年間を振り返ってみれば、講義室、図書館、片道2時間の電車、あらゆる場所で時間を費やして思考をめぐらし、決して僥倖ではない自分の中にできる限りの蓄積を行ってきていました。その中で学び得られたものも多く、特に3年次に参加した海外視察研修旅行では、初めて日本以外の国を訪れたことで、堺のあるような海外の捉え方をしていた自分の中に、むしろ同じ世界であるというような考え方が芽生え、最も大きな学びを得られました。これらは入学当初に決意したことを自分なりに貫き通した結果だと思っています。

しかし、卒業を間近に控えた今になって4年を顧みたことで、「本分を全うする」ための方法は必ずしも一様ではないことに気づかされました。それは、私が学生生活で得たもう一つの大きなものである「仲間」からの気づきです。私の仲間は各々の4年間の中で、アルバイト、部活、サークルなどに打ち込む者もいれば、それらを含むあらゆる“今のうちにしかできない新しいこと”に全力で取り組むことで自らの可能性を広げた者、さらには準備段階も含めて自らの力で半年間のバックパックによる世界一周を成し遂げることで知見を広げた者までいました。そしてこのような仲間達は皆、私とは違ったものに力をいれたことで私とは異なった貴重な学びを得られていることも知りました。故に、私の目指した学生の本分の全うは、必ずしも学業だけでない「勉強」をして学ぶことだと気づきました。

私の名大生としての4年間は、自らの打ち込んだものから得たことに加え、私に新たな気づきを与えてくれる生涯の友に出会うこともでき、とても貴重な財産を築くことができた時間でした。本当にありがとうございました。



〈筆者・中央〉

# 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



## 『野球とともに歩んだ四年間』

情報文化学部 4年 内山 敦史

大学4年間を振り返ると、密度が濃く、あっという間に過ぎ去っていったように思います。大学での授業、一人暮らしでの生活、アルバイトなど、何もかもが新鮮で必死に色々なことに取り組んできましたが、その中で自分が最も力を入れて取り組んだと胸を張って言えるのは、硬式野球部での部活動です。

大学で野球部に入ろうと思ったきっかけは、端的に言うと、高校野球で完全燃焼できなかったからでした。大学でもう一度野球に熱中して、すっきりした気持ちで野球人生を終えたいという思いから、入部を決めました。

そんな思いで入部しましたが、体格的にも技術的にも上級生に全く勝てず、1年春・秋、2年春・秋の4シーズンはベンチを温める歯がゆい日々が続きました。

自分の中で大きく野球に対する意識、チームに対する思いが変わったのは、2年秋のシーズンが終わった時でした。そのシーズンでチームは下部リーグ降格が決まり、かつ、当時主力の大多数を占めていた四年生が引退するという状況でした。個人としても、チームとしてもこのままではいけないと強く感じ、次のシーズンで即上部リーグ昇格を果たすべく、今まで以上に懸命に練習しました。その結果、初めてシーズンを通して試合に出場し、チームも目標通り昇格を果たしました。昇格が決まる瞬間の喜び、身震いするような感覚は今でも忘れられません。

しかしチームは次のシーズンで再び下部リーグに降格してしまいます。当時のチームの雰囲気は良いとは言えず、そのシーズンを境に何人もの仲間がチームを去りました。そんな中で最終学年となり、主将に就任しました。まずは選手一人一人が心から野球を楽しんで、勝ちに向かって一枚岩になって戦えるチーム作りを目指しました。どうやってチームを良くしていくかを同期とよく話し合っていたのを覚えています。結果、春のシーズンで再び昇格を果たし、さらに夏の七帝戦で優勝、秋のシーズンで上部リーグに残留するという納得のいく成績を収め、引退することができました。

この四年間嬉しい思いの倍くらい悔しい思いをして、決して順風満帆ではありませんでしたが、引退の瞬間、完全燃焼できた心から思える良い四年間でした。今後の人生においても、野球のように打ち込めるものを見つけて、常に努力する姿勢を忘れずに生きていきたいと思います。



## 『¥end{ 学生生活 }』

理学部 4年 鈴木 聡一郎

2018年1月19日。卒業論文を提出し、私の理学部数理学科の学生としての生活は実質的に終わった。あとは4月から始まる多元数理科学研究科の院生としての生活に備えてのんびりと数学をやるだけ。そのはずだったが、この文章の執筆という想定外の課題が1つ増えた。どうやら私の学業成績がそれなりに優秀だったためらしく、光栄である。「学生生活の思い出文集」ということだから、思うことをあれこれ書いてみる。

振り返ってみると、随分と楽しい4年間だった。部活やらサークルやらといった類の「大学生らしい」ことにはほとんど一切関わらず、友人も皆無ではあった。しかし昔からひとりであることを好む性分だったし、なにより数学という大変興味深い学問を学んでいられたのだから楽しくないはずがない。この4年間、次々と現れる未知の概念との格闘は実に愉快だった。理解できずに苦しむことも多々あったが、それも数学の醍醐味の1つである。例えば、大学入学直後にはこんなことがあった。関数の極限値の定義に関する話題である。私は $\varepsilon - \delta$ 論法による定義については以前から知っていたのだが、微分積分学の講義では収束列を代入して $\varepsilon - N$ 論法に帰着する流儀を採用していた。不勉強だった私は後者の定義を知らず、この2つが同値であることを納得するのに少々時間を要したと記憶している。今となってはほとんど当たり前のことに思うが、当時の私にはそうではなかった。この4年間で多少は成長しているようである。

それからもう一つ、4年間の学びの集大成である卒業論文について書いておかななくてはならない。卒業論文の題は「フーリエ級数の収束判定について」である。扱った結果自体は卒業研究で読んだ本の演習問題の寄せ集めだが、寄せ集める問題の選定とその配列順序、そして証明については自分なりに努力した。結果として、完璧ではないにしても満足のいく出来のものを書き上げることができた。あとは2年後の修士論文も満足できるものにするために、引き続き数学を楽しんでいくことにする。

以上、学生生活の思い出というよりは数学の思い出といった様子だが、これをもって私の「学生生活の思い出文集」とさせていただきます。





# 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



## 『感謝』

農学部 4年 古田 正也

新入生の方々の多くは少なからず夢や希望を抱いて名古屋大学に入学したと思います。私もその1人であり、入学当時はこれから始まる大学生活に心躍らせていました。これから読んでいただく私の文章は、きっと幾人かには共感していただけることであろうと信じています。初めに、恥ずべきことに入学当時の私の頭の中にある事は、これから何をして遊んでいこうかという事ばかりでありました。厳しい受験勉強からの解放感からでしょうか、やりたいことは山ほどありますが、それを達成するにはあまりにもお金が足りないのが学生の歯がゆいところです。遊びに充てる金銭の要求など両親にできるはずもなく、致し方なく多くの貴重な時間をアルバイトに費やしていました。稼いだお金と空いた時間は全て趣味、旅行などに費やされたため、成績はあまり良い方ではなかったのですが、購入した楽器類や棚に収まりきらぬほど収集したCD、大型バイクを眺めてみても後悔の念に駆られる事は微塵もありません。小さな自己満足と物欲を満たしたかの様に他者には映るのかもしれませんが、私は趣味を通じて出会った多くの方々から与えてくれた思い出や、多くの貴重な体験に基づくものであると思っています。

さて、大学生活における学問の面についてもお話ししたいことが多くあります。漠然と興味を持った第一志望の研究室に連良く配属された私が最初に成すべき事は、3年間の不勉強を取り戻すための努力でした。この1年間はとにかく必死で、つい先日ようやく学生としての在り方が板についてきたのではないかと実感できています。これもひとえに指導してくださった先生方や先輩方のご厚意によるものであると思います。4カ国7人の留学生に囲まれ英語で日々コミュニケーションを取り、教授の指導の下自分の研究テーマ以外にも多くの研究を立ち上げ、外部の先生方と意見交換をしながら研究を進めていく日々の生活は今までに経験したことが無い非常に刺激的で有意義なものでした。海外の学会での英語での口頭発表やジャーナルに投稿する英語論文の作成など、学部生には辛く厳しい事も多々ありますが、今では忙しい日々の中にもやりがいを感じています。

最後にありきたりな言葉ではありますが、成長した今の自分は決して自分一人の力によって形成されたものではなく、周囲の人々の支えがあってこそのもです。これからの残りの学生生活も、周囲に対する感謝の気持ちを忘れることなく過ごしていきたいものです。



## 『国際開発研究科での2年間を振り返って』

国際開発研究科 M2 クロフォード 後藤 花

今年は例年にない寒さの厳しい冬でした。まるでこの2年間のわたしの研究生活と重なるような思いです。開発学やグローバルな農業問題、食糧問題を学びたいと思い入学したものの、なかなか自分の興味を研究に落とし込むことができず、テーマの方向性も何度も変わりました。やっとテーマを見つけた、フレームワークができたと思っても「独自性が見出せない、研究方法が妥当でない、論理的でない」と突き返される日々が続きました。出口の見えないトンネルを進んでいるようで何度やめたいと思ったかはわかりません。しかしその中で熱心にわたしと向き合ってくくださった研究科の先生方やいつも側で励ましてくれた仲間が存在があり、最後には「バングラデシュの食料品価格高騰の要因」というテーマで自分の興味を研究としてまとめることができました。振り返ると日々試行錯誤しながら研究と向き合った経験は、学術的な物の見方や論理的思考を鍛えるうえでこれまでの私の人生にはなかった大変貴重な機会であったと思います。

また、国際開発研究科は半数以上の学生がアジアやアフリカなどからの留学生であり、毎日が異文化交流、多様性の理解という環境での大学院生活でした。特に授業中に途上国の実情について留学生の生の声を直接聞いたことは大変有意義なことであったと思います。ともすれば文化の違いや言葉の壁によりコミュニケーションが上手く取れず苦労することもありましたが、様々な考え方や価値観、文化を知ることは楽しく自分の世界も広がりました。そしてなによりも同じ研究生活を過ごしたからこそ築くことのできた彼ら彼女らとの“友情”は今後の人生においてもかけがえのない宝となることでしょう。

ようやく春の暖かさを感じられるようになり、私自身も苦しかった時期を乗り越え少しずつ光が見えてきたように思います。4月からは博士後期課程に進み研究を続けます。いつかこの研究科を通じてできた仲間と共に国際舞台と一緒に仕事ができるよう、まずはPh.D取得を目指し今後とも頑張りたいと思います。



〈筆者・右端〉



# 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



## 『人生を変えた二年間』

環境学研究科 M2 趙 舒悦

今までの人生の中で、忘れられない日として、多くは無いですが、名古屋大学環境学研究科からの合格のお知らせが届いたあの日は一生忘れられません。待ちに待った「合格」を家族に報告していた時の喜びは最高の喜びでした。この合格により、名古屋大学大学院にいたこの二年間、研究室で勉強したことや、就職活動の中で勉強したことは、私の人生を変えたと思っています。

大学院入学時、留学生としての私の日本語力がかなり足りなかったですが、先生、先輩、秘書および同期の皆は暖かく迎え入れてくれました。話をしたり、BBQや飲み会を誘ってくれたり、私にとって非常に大きな励み、そして支えになりました。特に、先生には、言葉では言い表せないほど感謝しております。いつも丁寧なメール、詳しくて理解しやすいアドバイスをくださって、本当にありがとうございました。また、ご自身の研究科時間を割いてまで、修士論文を何とか洗練させるため添削をしてくださり、親切にご指導をくださりました。こんなに良い先生は世の中に本当にいるということに感激しながら、心より感謝しております。そして、大学院の仲間たち、日本人だけではなく、様々な国からの留学生もいます。その人たちと交流することで自分の視野が広がった、新しい世界に了解する機会を与えていただいたことにも感謝しております。

卒業してから、日本で就職します。就職活動を振り返って、思い出したくないほど大変でした。でも、最後まで諦めず、様々な困難に直面した自分が成長できて、今後、他の困難に乗り越える自信も貰えました。また、就職活動中、留学生キャリア支援室の先生と一緒に頑張っていた友達がいないと、私は絶対に就職できません。いつも支えてくれた人々に感謝しております。

私、いつも運が良いかもしれませんが、出会った人はいつも優しい人ばかりです。お世話になった皆様、ありがとうございました。春から社会人として、名古屋大学で学んだことを胸に、人生の次のステップに踏み込んで、頑張ります。



## 『学園生活の思い出』

情報科学研究科 M2 李 セイ

二年間の修士生活を送り、桜の芽吹く頃に私は修了を迎えます。

私は研究生から修士課程に入学し、自分の研究科や分野に限らず、ほかの研究室にも多くの友人ができました。そして、母国を出て初めて、同じ国の友達の大切さも実感しました。

最初の一年間、学園祭のようなドラマでしか見たことがないイベントにも積極的に参加し、学園生活を満喫しました。寮から出た後は、自分で部屋を探したり、学校の各エリアを探索したりすることで、知らず知らずのうちに、名古屋の穏やかな生活の環境にも慣れていきました。

語学を習得するために、国際交流センターで開催している桜の会などの活動にも参加しました。日本に来たばかりの私に対して皆さんが親切で、そこで交わされる日常的な会話や活気あふれる対話に、時々家族と一緒にいるかのような雰囲気も感じ、心に沁みました。

また、修士一年目の時、学部時代のように、私は新しい授業教室を捜し、周りの違う言語を使う人々とグループを結成して同じ任務を完成することはとても懐かしく、と同時に、それがもたらす新鮮感も覚えました。チームワークは常に楽しいわけではありませんが、各人の特徴を見られる点で私はとても好きです。その交流の環境を提供してくれた名大にはとても感謝しています。

二年生になったあと、仕事探しという目標を確定し、毎日忙しい生活を迎えました。大学で行なわれている各就職イベントに助けられる面も多かった。私は、面接などの場面で緊張しやすく、ある意味劣等感さえ感じました。そんな自分に大切な意見や助けを提供したのはやはり大学で、学習だけではなく、生活の各方面で援助を提供してくれる名大はとても暖かい感じがします。

二年前のように、今日の私も研究室への階段を登っています。こんな日々も残り少ないですが、今からの毎日、この大学で過ごす全ての時間を大切にしたいです。







# 特集① 平成29年度名古屋大学体育会 結果報告会

平成29年度名古屋大学体育会結果報告会が、10月21日に南部生協2階 Mei-diningにおいて、名古屋大学体育会により挙行されました。

この結果報告会は、本学体育会に加盟するクラブにおいて、各種競技大会で優秀な成績を取った個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的とした体育会会長表彰と、体育会に所属するクラブの一年間の活動結果の報告会及び体育会常任委員幹部の世代交代式を合わせた会となっており、今年度から開催されています。

今年度の体育会会長表彰では、個人4名と15団体が本学体育会会長の松尾総長から表彰され、1年間のめざましい功績が讃えられました。加えて、松尾総長及び木村理事・副総長からは、今年度本学が主管となり開催された七大戦での各クラブの活躍への賛辞と共に今後の活躍に期待する激励の言葉が贈られました。

また、表彰式後の幹部交代式や体育会加盟クラブによる結果報告会は、新たな体育会のカラーやクラブ毎の特徴の違いが覗える場となり、併せて開催された懇親会も大変な賑わいを見せ、平成29年度名古屋大学体育会結果報告会は閉会しました。

※平成28年度まで体育会会長表彰表彰式と体育会幹部交代式・結果報告会と分かれていた行事を平成29年度から統合し、体育会結果報告会とした。



## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 平成29年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

表彰対象期間：平成28年11月1日～平成29年9月30日

### ● 個人の部 (4名)

氏名 (学部・学年)	運動部名	該当賞	出場大会名及び成績
河村 優花 法学部・2年	オリエンテーリング部	会長特別賞	Junior World Orienteering Championships 2017に出場(世界ジュニア選手権大会)
二宮 初音 経済学部・3年	フィギュアスケート部	会長賞	第89回日本学生水上競技選手権大会 フィギュア部門 女子Cクラス 2位
加藤 祐矢 経済学部・4年		会長賞	第89回日本学生水上競技選手権大会 アイスダンス準選手権 優勝
前田 直樹 生命農学研・前期1年	ボート部	会長賞	平成29年度関西選手権競漕大会 男子シングルスカル 3位

### ● 団体の部 (15団体)

運動部名	該当賞	出場大会名及び成績
オリエンテーリング部	会長賞	2016年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 リレー競技部門 MER 準優勝
馬術部	会長賞	第52回中部学生自馬競技大会総合馬術競技 団体の部 優勝 第56回全国七大学総合体育大会 優勝 (2連覇)
ボート部	会長賞	第49回中部学生選手権競漕大会 総合 第1位 第49回中部学生選手権競漕大会 男子総合 第1位 第49回中部学生選手権競漕大会 女子総合 第1位
男子ラクロス部	会長賞	第25回東海学生ラクロスリーグ 優勝
ソフトテニス部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 ソフトテニス競技女子の部 団体戦 優勝 (3連覇) 第56回全国七大学総合体育大会 ソフトテニス競技男子の部 団体戦 2位
ハンドボール部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 ハンドボール競技 優勝 (2連覇)
航空部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 航空競技 優勝
硬式テニス部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 硬式テニス競技男子の部 優勝
硬式野球部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 硬式野球競技 優勝
陸上競技部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 陸上競技男子の部 優勝
弓道部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 弓道競技男子の部 2位 第56回全国七大学総合体育大会 弓道競技女子の部 2位
準硬式野球部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 準硬式野球競技 2位
相撲部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 相撲競技 2位
体操部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 体操競技 2位
女子ラクロス部	会長賞	第56回全国七大学総合体育大会 ラクロス競技女子の部 2位

# 特集② 第58回リーダーズ・アセンブリー

南山将輝(名古屋大学体育会)



昨年12月10日に、名古屋大学東山キャンパス野依記念学術交流館にて、リーダーズ・アセンブリー（以下、L.A.）を開催いたしました。

L.A.とは、教育推進部と体育会の共催で行われる研修会で、体育会に所属するクラブの指導的役割を担う学生（主将、主務等）及び、各部活動の次期リーダー候補を対象としています。本年度は本学の体育会部活動に所属する71名の学生が参加しました。今回で58回を迎えるこの会は、クラブの強化や発展さらに部活動内における幹部のあり方について話し合い、クラブの発展につなげる事に加え、クラブ間のつながりを築くことを目的としています。

午前中は三重大学の鶴原清志先生にメンタルトレーニングに関する講義、名古屋学芸大学の大嶋里美先生にアスリートのための栄養学について講義をしていただき、最後に本学総合保健体育科学センターの水野貴正先生にクラブ活動におけるアドバイスをいただきました。御三方とも実際に用紙に書き込む形の講義をしていただき、各クラブ員は自分の部活動や自身の現状について把握することができた様子でした。

午後はあらかじめ各クラブに行ったアンケートから、似た問題を持つクラブ同士でグループを作り、問題を解決するにはどうしたらよいかについて話し合いました。トレーニング方法や新入部員の確保、運営費、練習方法、施設利用など様々なテーマについて、各部の現状を話し合い、対策を模索しました。午後には各グループで話し合った内容について発表を行い、出席者全員で問題と解決策を共有しました。

今回のL.A.で得た情報を各クラブに持ち帰り共有いただき、今後のクラブの運営や強化に役立てていただければ幸いです。最後になりましたが、今回のL.A.を開催するにあたりご尽力いただいた関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。



## クラブ活動

### サッカー部

「大学の部活」は、学生が主体となって活動していくものです。競技をするのももちろんのこと、運営をするのも学生です。自らが競技を楽しむことができ、部活に関わっている人たちを楽しませることもできる活動とはどんなものか。学生が主体となって自由に考え、自由に行動できる、そんな大学の部活に魅力を感じませんか？

今年のサッカー部は「サッカー部に関わる人全員を楽しませること」を活動目的として活動します。東海リーグ1部昇格という最高の結果を手にして、サッカー部に関わる人全員を楽しませます。人工芝でサッカーができることをはじめとして、サッカー部には素晴らしい環境が整っています。そして本気でサッカーをする仲間がいます。選手、マネージャー、ともに戦う仲間大歓迎です！ぜひ山の上グラウンドに見学に来てください！



### SF・ミステリ・幻想文学研究会

私たちSF・ミステリ・幻想文学研究会は3000冊以上の蔵書を持つ読書サークルです。部室の蔵書を会員は自由に借りて読むことが出来ます。また、ただ読むだけでなくイベントの企画、参加を活動として行っています。例えば指定された本について感想や解釈を出し合う読書会、本のレビューや批評をまとめた会報の発行、コミケ・文学フリマなど即売会への参加があります。読書系イベントを共催し、プロの前で話すこともあります。

このように本会は「開かれた読書」を提供しているサークルです。



## トピックス

## 学生相談総合センター案内

「みんな悩んで大きくなった〜♪」という唄がかつて流行したことがあります。青年期には悩みがつきもの。対人関係、自分の性格、将来の進路・悩みはさまざまです。こうした悩みをともに考え、解決の道筋を一緒に探すお手伝いをするのが学生相談総合センターです。学生相談総合センターには、以下の3部門と1室があります。どのような悩みでも、一人でかかえらぬ深みにはまってしまうこともあります。遠慮なく、相談にいらしてください。毎年、多くの皆さんが、センターに足を運んでくれています！

## 学生相談部門

臨床心理士が学業、進路、将来、対人関係、家族との関係など、学生生活上の悩みや課題についての相談、カウンセリングを行っています。

## 相談申込・問い合わせ

TEL : 052-789-5805

Mail : soudan@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

場所 : 工学部7号館B棟2F

URL : <http://gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/>

## メンタルヘルス部門

精神科医が、無気力、不安、うつ、ひきこもり、依存などの問題に対して精神療法や、場合に応じて薬物療法を行っています。

## 障害学生支援室

修学上困難のある障害学生の支援や支援機器の貸出、コンサルテーション等を行っています。

## 就職相談部門

キャリアカウンセラーが就職に関する相談および情報提供を行っています。

## 大幸キャンパス分室

本館3階315室

## 鶴舞キャンパス分室

基礎研究棟別館5階



## 理学部相談室

理学部A館243号室

## 農学部相談室

農学部A館637

## グループ活動

様々なグループアクティビティを定期的で開催しています。目的に合わせて誰でも気軽に参加いただくことができます。学業の合間の空き時間に、一度見学してみませんか。

みんな悩んで  
大きくなった〜♪



## ゲームの会

少人数でボードゲームをしています。自分を表現することが苦手な人も参加しやすい雰囲気です。

開催日 毎週水曜日13時~15時  
場所 学生相談総合センター



## コレクション自慢の会

誰もが持っている「自分の趣味の世界」を自由に語る会です。好きなこと、最近ハマっていること、どこかに旅行に行ったことなどを自由に語り合う場です。

## Peer Support

ピア・サポートとはピア（仲間）同士で助け合うことです。サポートしてもらった学生もサポートする側にまわった学生も、ともに成長することができるのが、ピア・サポートです。学生に相談したい、学生の相談にのりたい、サポーター仲間を作りたい皆さん、ご連絡ください！

## 学生相談サポーター

先輩サポーターが悩みに寄り添い、アドバイス、体験談、そして時にはフリートークで応援します。投稿相談もご利用ください！




## 就活サポーター

進路の決まった頼りになる先輩たちが、あなたの就職活動を応援します。就職の決まった皆さん、サポーター活動してみませんか。

障害学生支援室  
サポーター

修学上困難のある障害学生の支援をします。誰もが平等に修学できる環境づくりに貢献する素晴らしい取組です。



グループ活動、Peer Supportに興味のある方は  の中のいずれかの方法で学生相談総合センターまでご連絡ください。

# 教育推進部の窓

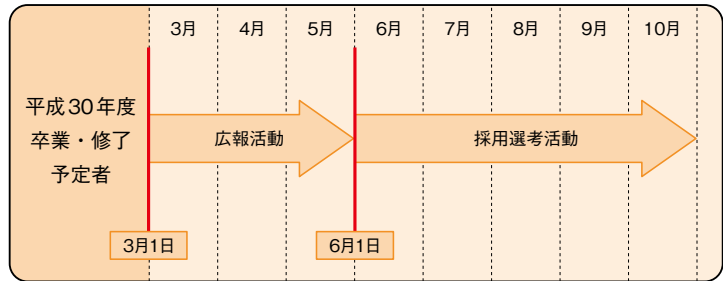
## 就職活動について

教育推進部学生支援課就職支援室

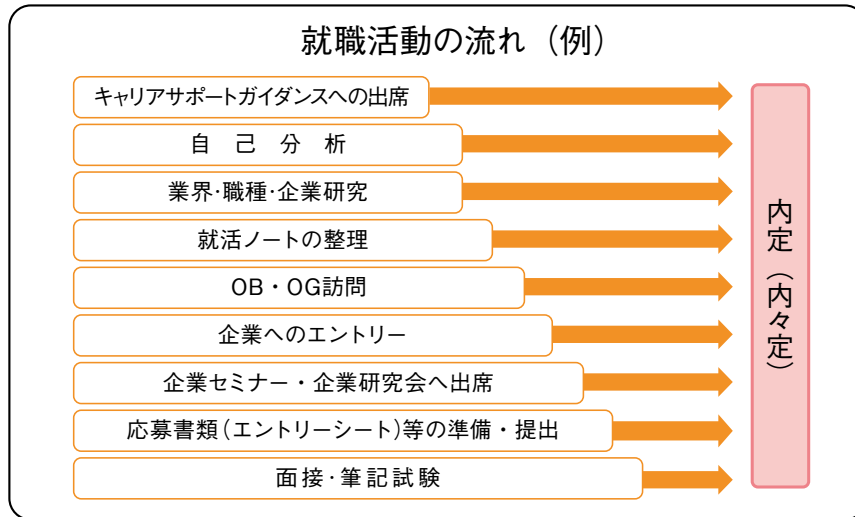
就職活動を開始した平成30年度卒業・修了予定の学生も多いでしょう。就職支援室では、就職活動の各段階に応じたガイダンス等を実施しています。ガイダンス等は、就職支援室ホームページ、就職支援メールマガジン、名古屋大学ポータル、及び各学部・研究科の掲示板で案内しますので、参加してみてください。また、専任相談員による就職相談も行っていますので、是非ご利用ください。

平成30年度卒業・修了予定者からの就職・採用活動スケジュールは右記の通りです。広報活動は、卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降に開始、その後の採用選考活動は、卒業・修了年度の6月1日以降に開始となります。該当する学生は、留意の上就職活動に臨んでください。

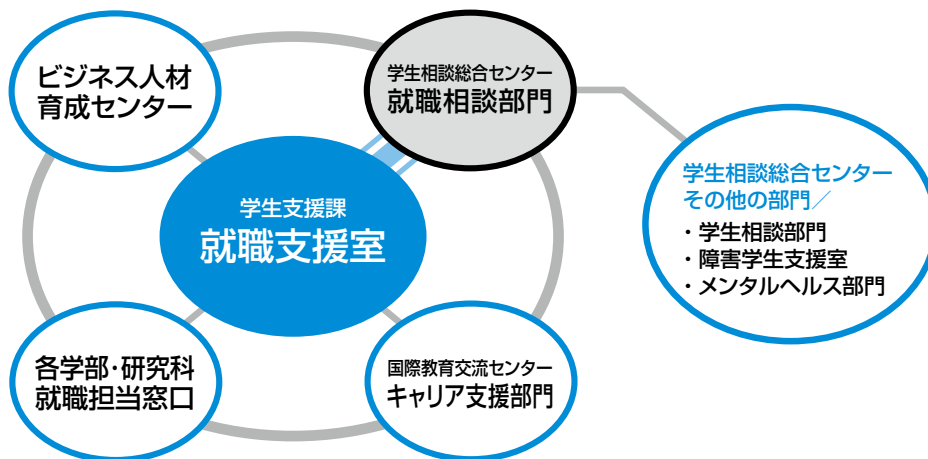
### 就職・採用活動の開始時期について



### 就職活動の流れ（例）



### 本学の就職支援体制



#### 就職支援室・就職相談室の連絡先等

- U R L <http://syusyoku.jimu.nagoya-u.ac.jp/>
- M A I L [s-shien.evententry@adm.nagoya-u.ac.jp](mailto:s-shien.evententry@adm.nagoya-u.ac.jp)
- T E L 052-789-2176

#### メールマガジンの登録

就職ガイダンス、合同企業説明会、インターンシップ情報など、就活やインターンシップに役立つ情報をリアルタイムで配信します。登録は、下記URLから行ってください。

- U R L <https://portal.nagoya-u.ac.jp/>

# 教育推進部の窓

## 平成30年度学年暦について

教育推進部教育企画課

平成30年度の名古屋大学の学年暦は以下のとおりです。  
時間割表の変更、休講、定期試験の実施方法、学生への連絡事項等の案内、連絡は掲示板により必要の都度行われますので、十分注意してください。

### ■春学期

月	火	水	木	金	土	日		
4	2	3	4	5	6	7	8	4/2~10 新生ガイダンス等 4/5 入学式 ※4/11 春学期授業開始日 4/11~6/10 春1期授業期間
5	7	8	9	10	11	12	13	5/1 名古屋大学記念日 5/12 春1期木曜午後開講授業用の授業予備日 5/19 春1期月曜開講授業用の授業予備日 5/26 春1期授業予備日
6	4	5	6	7	8	9	10	6/6 春1期金曜開講授業用の授業予備日 (6/7午後~6/10 名大祭) 6/11~8/7 春2期授業期間
7	2	3	4	5	6	7	8	7/24 春2期授業予備日
8	6	7	8	9	10	11	12	8/8~9/30 夏季休業
9	3	4	5	6	7	8	9	9/21~27 G30新生ガイダンス等 9/27 秋季卒業式

### ■秋学期

月	火	水	木	金	土	日		
10	8	9	10	11	12	13	14	10/1 秋季入学式 ※10/2 秋学期授業開始日 10/26 地震防災訓練 10/2~11/29 秋1期授業期間
11	5	6	7	8	9	10	11	11/9 午後休講予定※一部の授業のみ(プレテスト準備) 11/10・11 大学入学共通テストプレテスト 11/23 秋1期金曜午後開講授業用の授業予備日 11/27 秋1期金曜開講授業用の授業予備日 11/28 秋1期授業予備日 11/29 秋1期月曜開講授業用の授業予備日 11/30~2/8 秋2期授業期間
12	3	4	5	6	7	8	9	12/26 秋2期月曜開講授業用の授業予備日 12/27 秋2期授業予備日 12/28~1/7 冬季休業
1	7	8	9	10	11	12	13	1/8 秋2期月曜開講授業用の授業予備日 1/18 休講予定(センター試験準備) 1/19・20 入試センター試験
2	4	5	6	7	8	9	10	
3	4	5	6	7	8	9	10	3/25 卒業式

## 学生教育研究災害傷害保険制度

教育推進部学生支援課

みなさんが、講義、実験、実習、演習または実技などの正課中、各種学校行事中、学校施設内にいる間、課外活動中及び通学中などに不慮の災害事故により身体に傷害を被ることは、万全の注意を払っていても発生することがあります。

このような不測の事態の被害の救済のため「学生教育研究災害傷害保険制度」があります。保険料は極めて低額になっておりますので、未加入者は必ず加入するようにしてください。

本学では、平成28年度に114件の事故に対して、約880万円の

保険金が支払われています。

新たにこの保険に加入しようとする学部生(留年・休学により保険の期限切れとなっている学生)、大学院生、研究生などは、所属学部等の教務学生担当係で所定の手続きをしてください。

なお、すでに加入している学生で、この保険の対象となる事故が生じた場合、ただちに事故の日時、場所、状況、傷害の程度を所属学部等の教務学生担当係まで連絡してください。

### <医療保険金について> 医師の治療を受けたとき、治療日数により下記保険金が支払われます。

平成30年4月1日現在

入院加算金については、1日から対象となります。

	治療日数	支払保険金	入院加算金 (180日を限度)
正課中・学校行事中 (治療日数が1日から対象となります。)	治療日数 1日~ 3日	3,000円	入院1日につき 4,000円  (注)入院加算金は、 医療保険金の 支払の有無 に関係なく入 院1日目から 支払われます。
学校施設内(課外活動を除く) 通学特約加入者の通学中・学校施設等相互間の移動中 (治療日数が4日以上の場合が対象となります。)	〃 4日~ 6日	6,000円	
	〃 7日~ 13日	15,000円	
学校施設内外での課外活動(クラブ活動)中 (治療日数が14日以上の場合が対象となります。)	〃 14日~ 29日	30,000円	
	〃 30日~ 59日	50,000円	
	〃 60日~ 89日	80,000円	
	〃 90日~ 119日	110,000円	
	〃 120日~ 149日	140,000円	
	〃 150日~ 179日	170,000円	
	〃 180日~ 269日	200,000円	
〃 270日~	300,000円		

(注)上記の保険金は、生命保険、健康保険、他の傷害保険、加害者からの賠償金と関係なく支払われます。

## 学研災付帯賠償責任保険制度

教育推進部学生支援課

### ① 保険の内容

日本国内外において、正課、学校行事等及びその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について補償します。

### ② 加入の対象者

学生教育研究災害傷害保険に加入している学生に限ります。

### ③ 対象となる活動範囲

#### Aコース 学生教育研究賠償責任保険（略「学研賠」）

正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Bコースの活動範囲を含む）

#### Bコース インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（略称「インターン賠」）

インターンシップ、介護体験活動、教育実習、保育実習、ボランティア活動及びその往復。但し、大学が、正課、学校行事、課外活動として認めた場合に限る。

#### Cコース 医学生教育研究賠償責任保険（略称「医学賠」）

医療関連学部・学科の正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Aコース、Bコースの活動範囲を含む）

#### Lコース 法科大学院学生教育研究賠償責任保険（略称「法科賠」）

対人・対物賠償：法科大学院等の正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Aコース、Bコースの活動範囲を含む）  
人格権侵害補償：臨床法学実習による不当行為に起因する事故。

### ④ 補償金額（支払限度額）・保険料

平成30年4月1日現在

活動内容	Aコース	Bコース	Cコース	Lコース
補償内容	学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）	インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（略称「インターン賠」）	医学生教育研究賠償責任保障（略称「医学賠」）	法科大学院学生教育研究賠償責任保険（略称「法科賠」）
対人賠償 対物賠償	対人賠償と対物賠償合わせて1事故につき1億円限度（※免責金額0円）			
人格権侵害賠償				損害賠償請求者1名あたり1,000万円限度（※免責金額0円）
保険料分担金（1年間）	340円	210円	500円	1,640円

※免責金額とは、自己負担額をいいます。

#### <対象となる事故例>



- ① 正課で化学の実験中、間違っ  
て薬品を混ぜ、爆発事故を起  
こしてしまい、クラスメイトに  
火傷を負わせてしまった。  
（A・C・Lコース対象）



- ② 学園祭で、焼鳥屋の模擬店を  
出店したが食中毒事故を出して  
しまい、5人が入院してしまっ  
た。  
（A・C・Lコース対象）



- ③ 正課でのインターンシップ活動  
中、派遣先の機械を使用し、誤  
って壊してしまった。  
（A・B・C・Lコース対象）



- ④ 授業を受けるために自宅から  
大学へ行く途中、駅の階段を駆  
け降りたとき、誤って前にいた  
老人にぶつかってしまった。大  
げがをさせてしまった。  
（A・C・Lコース対象）

## 学研災付帯学生生活総合保険

教育推進部学生支援課

学研災付帯学生生活総合保険は、学生教育研究災害傷害保険加入者を対象に、病気・ケガの入院・通院が1日目から補償される等の特色のある学生生活全般に補償を広げた保険です。加入は任意加入となっています。

補償内容・加入方法については、「学研災付帯学生生活総合保険パンフレット」を参照してください。

# 災害対策

## 学内の災害時要援護者の対応

皆さんは「災害時要援護者」という言葉をご存じでしょうか。障害者、高齢者、日本語があまり上手ではない外国人、妊産婦や傷病者、子供など、災害時に危険回避や避難などの行動を周囲と同様に行うことが難しく、何らかの支援を必要とする人のことです。政府・自治体は10年以上前から対応方法を検討していて、地域の避難所などで対策が行われています。

地震や火災が発生すると、キャンパスでは場合により数千人もの学生・教職員が避難することとなり、混乱した状況で障害者や留学生の安全確保は重要な課題となります。このような場合に備えて大学では教職員による対応を進め、防災訓練にも取り入れています。学生の皆さんも要援護者の状況を理解し、災害時に危険のない範囲で適切な対応ができるようにしてください。

### ◆ 災害時の障害者の対応

車椅子の利用者は停電でエレベータが動かないと避難が難しくなります。このとき、本人は担架などで安全なところに運びますが、電動車椅子はとても重いため、上の階に置いたままにせざるを得ないこともあります。利用者にとって車椅子がないとその後の生活に大きな支障となりますので、事前に十分な支援体制の検討が必要です。なるべく1階の講義室や研究室を使うなど、大学側の対応も必要となります。

視覚・聴覚障害、精神障害などの方は、一見して障害がわからないことがあり、災害の混乱の中で必要な情報が得られない、適切な支援を受けられないなどにより危険になる可能性があります。要援護者の状態をよく理解して、適切な対応が必要です。また障害者もどのように対応してもらう必要があるかを確認し、自ら支援を求めることも大切です。

### ◆ 災害時の外国人の対応

留学生や海外からの研究者の中には、日本語が十分理解できない人や、コミュニケーションがうまく取れない人もいます。大学では文書・表示やアナウンスの英語対応が進んでいますが、緊急時にすべての情報が英語で提供できるとは限りませんし、英語が堪能でない外国人もいます。このようなときに的確に情報を伝えるために、「やさしい日本語」が有効な手段の一つといわれています。

また、日本に住んでいても、外国人が災害時の特殊な状況に対応することは容易ではありません。災害時に帰国した例も多数ありますが、その後の復学の支障となります。このような場合には大学や教職員の対応に加えて、身近な学生の支援が有効です。外国人も防災は日本の文化の一つと考えて日ごろから関心を持ち、自ら対応できるようにすることが大切です。

### ◆ 非常時を考えると日常が変わる

災害などの非常時には、普段は見えない問題点がはっきりと表れてきます。要援護者の対応を考えることで、様々な人が活動する大学の日常環境の向上にもつながります。一人一人が相互理解とコミュニケーションを深め、自らできることを意識し、非常時に備えましょう。

問い合わせ先：災害対策室、障害者支援室、学生相談総合センター障害学生支援室



## 伝言板

## 学生証は大切に

教育推進部教育企画課

最近、学生証紛失による再交付の申請及び磁気不良の修正が増えています。学生証は本学の学生であることを証明するものであるだけでなく、在学証明書等の発行や中央図書館への入館等にも必要です。

万一紛失したり盗難に遭ったりした場合は、必ず警察へ届け出してから、所属学部教務学生係等にて再交付の手続きを行ってください（有料）。紛失した学生証が悪用され、思いがけない迷惑や被害を受けることもありますので、十分注意してください。

また、磁気不良については、スマートフォン等、磁気を発生するものの影響が考えられますので、それらの近くに置かないようにしてください。

## 自転車の盗難防止,走行上の注意及び自転車損害賠償保険等への加入について

教育推進部教育企画課

学内において、自転車盗難の犯罪が増加しています。駐輪する際は短時間であっても必ず施錠をし、鍵も二重ロック（ツーロック）にしてください。自転車窃盗犯の約70%がツーロックされている自転車は盗まないとされています。

なお、当然のことですが、他人の自転車を無断で使用する行為は犯罪行為です。自転車の窃盗は、刑法第235条の「窃盗罪」であり、10年以下の懲役・50万円以下の罰金が科せられます。警察に検挙された場合、必ず書類送検され、さらに、本学からは学則に基づき懲戒処分が科せられることがあります。絶対に行わないでください。

また、自転車走行上の注意として、東山キャンパス周辺は坂の多い地形ですので、特に下り坂でのスピードの出し過ぎや一時停止の無視等により、歩行者や他の車両との事故を起こさないよう、十分に注意してください。たとえ自転車でも、歩行者に接触すると命にも関わる大事故につながりかねません。周囲に配慮した、優しい走行を心がけてください。

さらに、名古屋市では平成29年10月1日より、自転車利用者及び自転車を利用する未成年の保護者は、自転車損害賠償保険等への加入が義務付けられました。近年、自転車事故で相手方を死傷させた場合、高額の損害賠償を命じる判決が相次いでおり、被害者の保護を図るため、また、損害賠償責任を負ったときの経済的負担の軽減を図るためです。まず、自転車事故による損害賠償責任が、現在加入している保険の補償範囲に含まれているか確認しましょう。

(参考：<http://www.city.nagoya.jp/shiminkeizai/page/0000091461.html>)

## 引っ越しをしたら住民票を移しましょう

教育推進部教育企画課

進学や就職などで転出をされた方は、原則、現在住んでいる寮・アパート等が住所地になります。住所の異動がある方は、住民基本台帳法に基づき、転出・転入の手続きをする必要があります。

上下水道やゴミ処理、道路・公園の整備などの役割は、住んでいる市区町村が担っており、住民票はこうした行政サービスや選挙人名簿への登録などにつながる大切な情報ですので、忘れずに手続きしてください。

平成29年度名古屋大学学生生活広報担当グループ〈主査〉濱嶋信之 〈委員〉五十嵐哲也・柳田伸太郎

【本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。】

教育推進部学生支援課就職支援室 Tel.052-789-2176/Fax.052-747-6543